

別紙様式 1

令和 6 年度宮原中学校区研究推進計画

校番（1 2）呉市立宮原小学校

校長名 木谷 順子

1 学校教育目標

宮原中学校 「**自他尊重～未来を拓く力の育成～**」
 坪内小学校 「**みずから ひらく**」
 宮原小学校 「**学び考え行動する人を育てる**」

2 目指す児童生徒像

自分を磨き、社会の一員としてよりよく生きようとする児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	①知識・技能	②問題の解決	③主体性・協働性	④郷土愛・貢献
後期	新しい知識技能を身に付けたり、既習のものとの関連付けや組み合わせをしたりすることで、 様々な場面で活用できる知識・技能として体系化することができる。 (中2～中3)	問題を見出し解決していくために、必要な判断をしたり、伝える相手や状況に応じた表現をしたりすることができる。	自分事として対象に関わり、他者を尊重して学習や生活の課題を解決したり新たな価値を創造したりすることができる。	地域社会の一員として 自分事として関わり 、地域に愛着と誇りをもつことができる。 中学校区の学校や社会のために できること考え行動することができる。
中期	新しい知識技能を身に付けたり、既習のものとの関連付けや 組み合わせ をしたりすることができる。 (小5～中1)	【必要な判断のために】 ・情報を選んで ・比較して ・分類して ・関連付けて ・批判的に見て ・多角的に見て	対象に積極的に関わり、他者の考えを受け入れて学習や生活の課題を解決することができる。	地域の歴史や伝統・文化を知って つながりを大切にし 、地域に愛着をもつことができる。 学校や地域のために できることを考え行動することができる。
前期	新しい知識や技能を身に付けるとともに、 既習のものとの関連付け ることができる。 (小3～小4)	※発達段階で分けるのではなく、各教科等の単元や学習内容に応じて必要な判断の方法を決めていく。	身の回りの人・もの・ことに積極的に関わり、協力して学習や生活の課題を解決することができる。	地域の良さや特色を知って 積極的に関わり 、地域を好きになることができる。 学級のために できることを考え行動することができる。
	新しい知識や技能を身に付けることができる。 (小1～小2)		身近な人・もの・ことに関わり、意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	地域の良さを知り、地域を好きになることができる。 友達のために できることを考え行動することができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学ぶ・ねばり強く生きる児童生徒の育成
 ～「分かる!」「できる!」仕掛けづくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和5年度、本中学校区では、『聴いて考える』授業づくりを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してきた。3校の取り組みとしては大きく3つのことが挙げられる。1つ目は、目指す児童生徒の具体的な姿を明確にすることである。そのため、育成を目指す資質・能力の「思考・判断・表現」の項目において、「聴いて考える姿」を、4つの段階で示し、その資質・能力に合わせた具体的な児童生徒のゴールの姿を設定できるようにした。2つ目は、協議会の視点を絞ったことである。目指したい児童生徒の姿が、実際の授業でどこまで達成できたか、また、そこに至るための手立てについて協議が深まるように、協議会シートを工夫した。3つ目は、授業研究後の取組を充実させることである。提案された授業から学んだことを、各教員が自分の授業でも取り入れたり生かしたりできるよう、教材研究の時間を確保し、その振り返りや共有の時間を取ることで、校区全体での授業改善を図った。

これらの取組の結果、児童生徒の「聴いて考える」力が身についたかを問うアンケートでは、肯定的に自己評価した児童生徒が3校とも80%を超えた。また、教員へのアンケート結果からも、授業改善への意欲の高まりがうかがえる。

しかし、3校のSWOT分析によると、「個別指導が必要な児童生徒が多いこと」や「学力差が大きいこと」「対話や学びを深めるための言葉や知識が少ないこと」が課題として挙げられている。よって、「基礎・基本の定着」へのアプローチがより必要であると考えられる。

併せて令和5年度は、積極的な生徒指導を通して、児童生徒の「自己指導力」の育成を図ってきた。児童生徒のアンケート結果から、「メディアコントロール」と「早寝・早起き」は引き続き課題があることが明らかとなった。生活の中で自分を律し、自他への視野をもって行動できることは、「主体的に学ぶ・ねばり強く生きる」という研究主題の児童生徒像の姿につながる。そのためには、「メディアコントロール週間」や「あいさつ・返事・掃除・くつそろえ・時間を守る」の生活5項目の定着への取組を通して、自分自身の状態を理解し、これらの行動を定着させることの意義がわかり、自ら行動することができる指導が必要であると考ええる。

そこで、令和6年度は「授業づくり」においては、基礎学力の確実な定着を図ることに重点を置き、児童生徒が「できる」「分かる」実感を得られる授業づくりを目指したい。「仕掛け」とは、本時の1時間の中で、教師が意図的に仕組む手立てとし、課題提示の仕方や教材設定、発問等が考えられる。このような仕掛けを授業や学習環境に組み込むことで、「できる」「分かる」という成功体験や充実感を積み重ねることができ、主体的に学ぶ力が培われていくと考えられる。また、ICT機器を効果的に活用し、基礎・基本の定着を図っていく。このような工夫をし、児童生徒が「分かる」「できる」実感を得られる授業づくりを行うことで、児童生徒の資質・能力の向上を図っていききたい。

また、「学びの基盤づくり」においては、異学年にグループによる体験活動や電子メディアコントロール等の取組などを仕掛けとしてとらえたい。そして、自己や他者との生活の基盤を整えていくことについて、「分かる」「できる」と児童生徒が思える指導の在り方やさらなる仕掛けづくりに取り組み、ねばり強く生きる力の育成を目指していききたい。

(3) 研究仮説

学習や健康、他者への理解について児童生徒が「分かる」「できる」実感を得られれば、主体的に学ぶことやねばり強く生きていく力を育むことができるであろう。

5 研究内容

(1) 「主体的に学ぶ」児童生徒の実現に向けた取組

①児童生徒が「分かる」「できる」実感を得られる授業づくりに向けた取組

- ・「分かる」：課題提示の工夫，教材や発問の工夫，学習内容をふりかえる場の設定
- ・「できる」：単元の中で，児童生徒がやりきれる適応題やパフォーマンス課題の設定（時間や内容の工夫）

②タブレット等のＩＣＴ機器の効果的な活用

- ・思考ツールの活用
- ・反復による基礎・基本の徹底（キュービナの活用）

(2) 児童生徒が「ねばり強く生きる」ことにつながる取組

○児童生徒が「生活５項目」を高める意味が「分かり」実現「できる」取組

○児童生徒の郷土愛と貢献の良さが「分かり」実現「できる」活動の設定

（異学年グループによる体験活動・地域貢献活動の充実，児童生徒代表者会「宮原子どもサミット」の取組）

○家庭を巻き込み，生活習慣を整える意味が「分かり」実現「できる」取組

（生活リズム改善「早寝・早起き・朝ご飯習慣」「家庭学習習慣」食育推進，体力向上，電子メディアコントロールの取組）

6 検証について

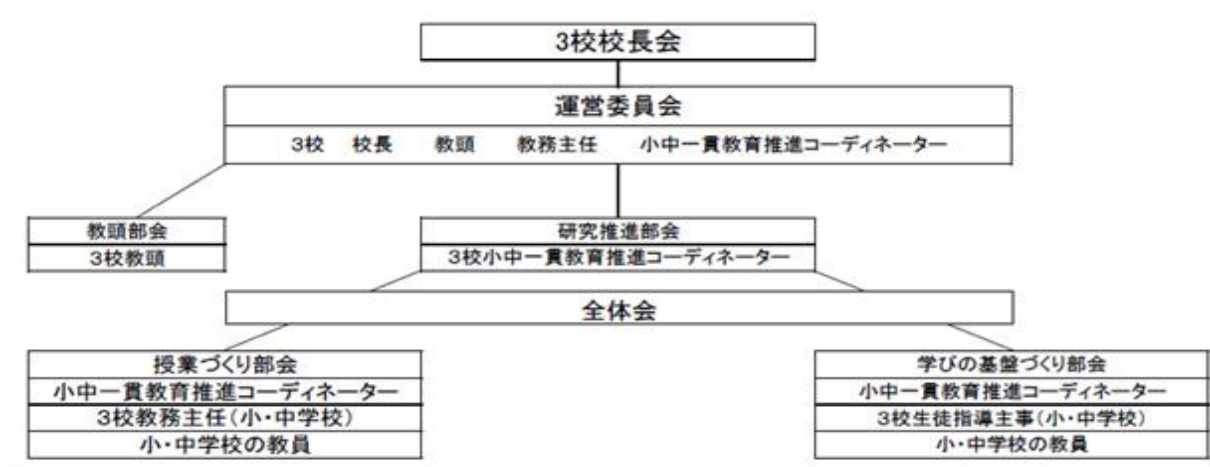
検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒が「主体的に学ぶ」ことにつながる授業改善ができたか。	教職員アンケート	○「学習５項目」に関する自己評価（４段階評価） ○授業改善に関する自己評価	R5の数値なし	○肯定的評価８０％以上
	児童生徒アンケート	「学習５項目」に関する自己評価（４段階評価）	R5の数値なし	○肯定的評価８０％以上
	学期末テストの結果	小学校：算数・国語の単元末テスト 中学校：数学・国語の定期テスト	R5の数値（参考） ○小学校（12月実施・標準学力調査） ＜宮原小学校＞ 国語…【知】75.8％ 【思】73.3％ 算数…【知】77.2％ 【思】61.6％ ＜坪内小学校＞ 国語…【知】70.4％ 【思】66.6％ 算数…【知】77.8％ 【思】56.3％ ○宮原中学校（R5学年末試験） 国語…60％以上の生徒の割合 53.2％ 30％未満の生徒の割合 18.0％ 数学…60％以上の生徒の割合 50.9％ 30％未満の生徒の割合 18.8％ ※R6の指標とは一致しないため参考	○小学校： 「国語」正答率80％以上の児童の割合が80％以上 「算数」正答率70％以上の児童の割合が75％以上 中学校： 「国語」正答率60％以上の生徒の割合が60％以上 「数学」正答率60％以上の生徒の割合が60％以上 ○小学校： 正答率30％未満の児童の割合が0％ 中学校：正答率30％未満の生徒の割合が10％以下

			値とする	
② 児童生徒が「ねばり強く生きる」ことにつながる取組はできたか。	児童生徒アンケート	「生活 5 項目」に関する自己評価（4段階評価）	86.4% （ア：⑪⑫⑭⑮⑯）	肯定的評価 85%以上
	児童生徒アンケート	「基本的生活習慣」に関する自己評価（4段階評価）	72.2% （ア：⑥⑦⑧⑨）	肯定的評価 75%以上

※ア＝学校生活に関するアンケート

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）

（中→小）第6学年 英語（1），数学（1）

（小→中）第7学年 国語補充（2），数学補充（2）

イ 小学校教科担任制等

宮原小 第6学年・第5学年（音楽）（図画工作）（家庭科）

第4学年（音楽）（図画工作）

第2学年・第3学年（音楽）（書写）

第1学年（音楽）

坪内小 第3学年～第6学年（理科）（書写）

第5・6年（家庭科）

第3・5年（図画工作）

8 推進計画

月 日	内容		
	宮原中	坪内小	宮原小
4月（宮中） （坪小） （宮小）	各校での校内研修（今年度の方向性の確認）		

4月15日(月)	第1回 小中一貫教育 運営委員会		
5月9日(木)		校内授業研究 専科	
5月16日(火)	第1回 宮原子どもサミット		
5月22日(水)	第1回 小中合同研修会(宮原小)		
5月29日(水)	第1回 小中合同授業研究(宮原中3年) 指導講話 広島大学 朝倉 淳 名誉教授		
6月5日(水)	小中クリーン活動		
6月13日(木)		校内授業研究 4年☆	
6月17日(月)	意識調査①(児童生徒・教職員)		
6月26日	第2回 小中一貫教育 運営委員会		
7月～8月	学力補充(宮小教員)		
	学力補充(坪小教員)		
7月2日(火)		校内授業研究 2年	
7月3日(水)	第2回 宮原子どもサミット		
7月4日(木)		校内授業研究 5年	
7月10日(水)			校内授業研4年
8月6日(火)	第2回 小中合同研修会		
8月22日(木)	ペタンク練習会		
8月5日(月)～		小学生学習会	
8月9日(金)			小学生学習会
9月10日(火)			校内授業研ひまわり
9月19日(木)		校内授業研究 3年	
9月25日(水)	第2回 小中合同授業研究(宮原小5年) 指導講話 広島大学 朝倉 淳 名誉教授		
10月3日(木)		校内授業研究 たんぽぽ	
10月25日(金)	地域公開参観日		
10月30日(水)		校内授業研究 1年☆	
11月6日(水)	校内授業研究 2年		
11月19日(火)	意識調査②(児童生徒・教職員)		
11月21日(木)		校内授業研究 ひまわり	
11月22日(金)	校内授業研究 1年		校内授業研1年
12月10日(火)		校内授業研究 コスモス	
12月11日(水)	第3回 宮原子どもサミット		
1月24日(金)		校内授業研究 6年☆	
2月7日(金)		校内授業研究 5年	
2月10日(月)	第3回 小中合同研修会 指導講話 呉市教育委員会		
2月14日(金)	小中一貫教育コーディネーター会		
2月27日(木)	第3回 小中一貫教育 運営委員会		
3月12日(水)	第4回 宮原子どもサミット		

9 その他

- ・小中一貫だより（年3回発行予定 各学校だよりの中に小中一貫教育の内容を加える。）

・児童生徒アンケートの項目に加えるもの

『生活5項目』

- 1 自分から、立ち止まって挨拶をしよう
- 2 『はい』と大きな声で返事をしよう
- 3 時間いっぱい黙って掃除をしよう
- 4 脱いだくつやスリッパをそろえよう
- 5 時間を守ろう

『学習5項目』

「分かる」

- 1 毎時間の学習内容を理解している。
- 2 毎時間の学習内容を友達と確認している。

「できる」

- 3 毎時間の練習問題ができる。

「主体的」

- 4 自分で問題を選んだり解き進めたりしている。
- 5 学んだことを生活に活かしている。